光村三下

にた意味の言葉、反対の意味の言葉

指導計画五時間扱い
第一次指導（概観）　1/2 時間
第二次指導（詳しく）一と 1/2 時間
第三次指導（語句）　一時間
第四次指導（発展）　二時間

○ 本課の目標

・ 似た意味・反対の意味の言葉の学習を通して言葉への関心をもつ。
・ 学習をもとにして辞書や参考書等を使って語彙を広げる。
・ 似た意味の言葉、反対の意味の言葉の働きを例文作りで確かめる。
・ 視点を決めて言葉を仲間分けし、品詞分類等の基礎を養う。

第一次指導（概観）と第二次指導の①　本時

〈区画〉似た意味（三区画）反対の意味（一区画）
分類（一区画　二名）

一　よむ（音読　六名　順繰り読み）

二　とく（読後感の話し合い）

○ 題目　題　名（板書）
・ 題名から学習のねらいを考える。
（言葉→日本語→意味→分類→辞典）

◎ ひびき（この説明文の面白いところ感じる）
・ 挿し絵で言葉の働きを考える。
・ p65（兄弟）→p60（動き）

○ 手引き（抜き書きの指示）
・ 赤線の文（部分）を書き出す。

三　よむ（指示に沿って黙読）

四　かく（視写　教師は板書）
（＊板書事項を参照）

ここから第二次指導扱いになる。

五　よむ（板書　指黙読一回、指音読一回）

六　とく（板書を活用した話し合い）

○ 語義（難語句の解消）**・区分**
・ 急いで　あわてて　しまった
・ 各文を二区分

◎ 心（核心：にた意味の言葉の特徴の確認）
・ 「家を出た」→「どうした」（行動）
・ 反対の意味の言葉を入れてみる。
・ 「しまった」→「どうだった」（様子）
・ 「あわてて」と別な言葉を入れてみる。
・ これらの言葉はどんな仲間 ←
気持ちを表す言葉

○ 余韻（言葉って、いろんな面があるなあ）

七　よむ（全員で板書を指音読）

以下、略案を書いてみます。参考にしてください。ご自分の授業として最初から組み立て直されても結構です。この教材で目を向ける方向を示すような授業を一時間してみました。

第二次指導（詳しく読む）第二時

一　よむ（音読　六名　順繰り読み）

二　とく（話し合い）

○　おさらい（前時の復習）

・「急ぐ」「あわてる」の例文の場面

・言葉を選ぶのは、誰か。

・似た意味と反対の意味の関係　・

○　承接（本時へつなぐ足場作り）

・反対言葉の三つの分類（ゲーム）

①　上と下（上下）以下（熟語で）

左右、朝夕と一字書いて反対語を言う。

②　大小、明暗、白黒、兄弟、山川、田畑

③　出入、上下、苦楽、売買、開閉（動詞）

○　手引き（視写の指示）

・反対の意味の言葉がいくつもある場合の段落を視写する。

三　よむ

四　かく

五　よむ（指黙読一回、指音読一回）

六　とく

○　語義・区分

いくつも　場合がある　たとえば　ぬぐ
着る　かぶる　はく　など　これら　でも

二区分後、後を二区分

◎　心（核心：対義語の特徴を確認）

・反対の意味の言葉の組み合わせ

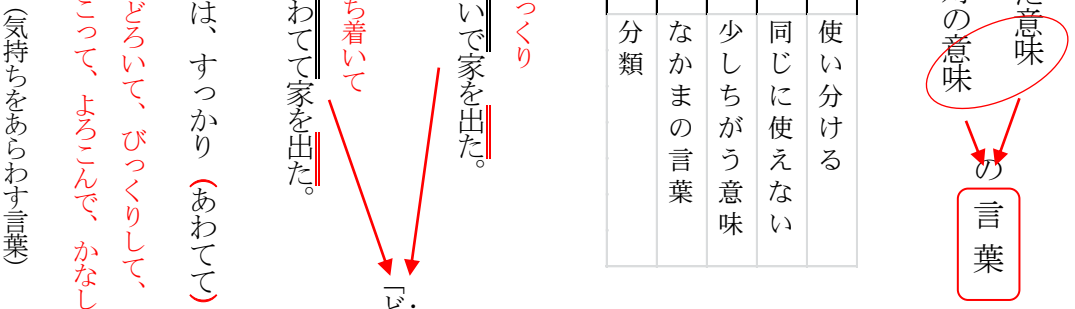
・反対語は、同じ仲間の言葉

・「　」のついた言葉の仲間

○　余韻（反対言葉って面白い）

七　よむ（全員で板書を指音読）

〈板書事項〉



ゆっくり
急いで家を出た。
「どうした。」
落ち着いて
あわてて家を出た。

ぼくは、すっかり（あわてて）しまった。
おどろいて、びっくりして、こうふんして、
おこって、よろこんで、かなしんで　…

（気持ちをあらわす言葉）

〈板書事項〉

急ぐ　　ゆっくりする
あまり時間……
あわてる　　落ち着く

① 上→下　上下　左右　朝夕
② 大小　明暗　白黒　父母　山川　……
③ 出入（出る・入る）上下（上がる・下がる）
苦楽（苦しむ・楽しむ）……

⇕

一対一

一つの言葉に、反対の意味の言葉がいくつもある場合があります。

たとえば、「ぬぐ」の反対の言葉には、「着る」「かぶる」
上着　ぼうし（上から下）
ズボン（下から上）
「はく」などがあります。
「はめる」「つける」

これらの言葉は、全部がなかまでもあります。

着るときの動きを表す言葉

第三次指導（形式の指導：漢字・難語句）第一時

一　よむ（音読　六名　順繰り読み）
二　とく（話し合い）
○　おさらい（前時の復習）
・（着る、はく）の対義語（裏から問う）
・（お父さん・パパ・父）の対義語で遊ぶ
・これは、どんな仲間の言葉
○　承接（本時へつなぐ足場作り）
・似た特徴で仲間に分類（活動は次回）
例　身に付けるときの動き　家族
○　手引き（視写の指示）
・黒板に書かれた漢字の読み仮名をノートに書く。分からない字は漢字を写す。一行に一つずつ書き、下は空けておく。
三　よむ（空けた下には、家庭で漢字を書く。
四　かく　最初は教科書のp143を見て書く）
五　よむ（指黙読一回、指音読一回）
六　とく
○　文中の位置
・言葉の出て来た区画の確認
◎　こもる力（この文章の代表する言葉）
・言葉を使うときに大事なこと（感覚）
・感じを少し変える言葉（複合語）
変わるのは（方向・様子）
・漢語（言葉の仲間）から受ける感じ
・送り仮名のある漢字（和語）の感じ
・対義語、複合語作りの法則　等
○　余韻（自分の感じを大切に言葉を使おう）
七　よむ（全員で板書を指音読）

〈板書事項〉

着る
はく
動き
ぬぐ

祖父　祖母　姉　妹　兄
弟　…
親
孫
お父さん　お母さん
パパ　ママ
父　母
家族

1	反対	賛成（さんせい）
	待ち合わせ	待つ＋合わせる
	急ぐ	
	進める	
2	宿題	家庭学習
	終わる	始まる
	感じ	
3	足す	引く（＋と－）
	読み切る	読む＋切る
	方向	前後左右上下
4	様子	
	守る	攻める
5	分類	
	細かく	細い　細かい

第四次指導（発展学習）第一時

一　班ごとに分かれて、教科書の六六ページの分類をする。
ア　準備品
①　画用紙　五枚ほど配布
②　短冊　一人一〇枚程度（予備も用意）
③　サインペン
イ　やり方
①　分担して短冊に単語を書き出す。
②　画用紙に分類名を大書する。**（班名も）**
・　最初は、二、三分類でよい。
③　書かれた短冊を画用紙に貼る。
ウ　完成したら掲示する。
エ　他の分類がないか、相談して繰り返す。
二　二五分程度で、活動を休止させ、各班からの発表に移る。質疑応答も含めて一〇分程度。
三　発表を聞いて、各班の分類を修正させると共に同じ仲間の言葉を追加する。辞書を使ってもよい。（例えば、「い」で終わる言葉なら、書いてない「美しい」とか、対義語とか）

第四次指導（発展学習）第二時

一　教科書六二ページの課題をする。
ア　やり方
①　B4用紙を縦長に半分に切って、それに鉛筆で下書きさせ、サインペンで清書し、掲示する。（氏名も）
②　辞書を使って、辞書ではどんな例文が書かれているかを調べる。
③　発表の時間は取らないで、掲示を読ませる。（三日くらいで外すと知らせる）
二　教科書六三ページの課題をする。
ア　やり方（複合動詞）
①　「読み」にプラスする言葉を班ごとに探させる。辞書の使用も勧める。
②　「言う」「書く」「聞く」についても調べ、教科書の「読む」のような表を作る。班ごとにさせてもよいし、個人にさせてもよい。（事前に表形式を印刷しておいて配ると力の弱い子には助けになる）
③　時間に余裕があったら、
「立ち読み　なめ読み　飛ばし読み
音読み　訓読み」など上につける言葉を考える。漢語としては「読書、読者、音読、黙読、愛読」なども考えられる。造語力の基礎になる遊びを入れるのも楽しいでしょう。少し、内容が多過ぎますが、手の内に持っていると、ちょっとした空き時間にゲームをするなど、語感（漢語は硬い感じ、和語は柔らかい感じなど）も含め、語彙を増やし、言葉に関心が向けられる。

今回は、ありがとうございます。貴重な体験ができそうです。四時間続きの研究授業のような格好になります。どうなるか、楽しみです。私ならこんなふうに授業したら楽しめるかなと考えたものです。

学年・学級の実態と離れているかもしれません。現場にいるのといないのとでは、そこに違いが出ます。でも、この違いは、大きいのです。何を教えるかに目が行きがちですが、結局、何がどう子どもに伝わったかが大事なのです。

私の案は、その意味では、机上の空論でもあります。ですから、授業をしながら修正していくしかないのです。それは、担任の場合でも、同じでしょうが…。

研究者は、大きな方向を示してくれます。それを具体的な形にしていくのが教師です。研究も大事です。研究の成果を学ぶことも必要です。しかし、そうした知識や技能も、ライブ（授業）で生かされないと意味がありません。一般論だけではだめなのです。その意味で、教師は舞台に立つ俳優・芸人・音楽家に近いものがあります。自分の中にその時間の流れが出来上がっていることは勿論ですが、臨機応変に対応できる力もなくてはなりません。落語家は、寄席に上がってお客の反応を確かめ、話の世界に引き込む工夫を凝らすようです。名人・上手になると無意識にその力が出るようです。

私の目指すところは、そこなのですが、国語に対する基礎知識が不足していることを痛感しています。教養がないということにもつながります。でも、有るもので何とか仕上げるのも、職人さんの腕前だそうです。工夫してみます。